

## ■WTC2023（中国武漢） 中日工程院士フォーラム参加報告

6月に武漢で開催されたWTC2023（世界交通大会）の特別セッション『中日工程院士フォーラム』に林良嗣EAJ会員（中部支部長、前世界交通学会会長）、三村信男EAJ会員（IPCCメンバー、前茨城大学長）、上田多門EAJ会員（北大名誉教授、前土木学会会長）、八重樫武久EAJ会員（トヨタ社友）が参加しました。モダレータは張峻屹EAJ客員会員（東南大学首席教授）で、“Innovation in Transportation Development for Planetary Health”をテーマに、中日各4名が交通インフラやモビリティの将来について講演を行いました。WTCは交通インフラ、都市計画分野の参加者1万人を超える産官学共催の大規模イベントで、活発なインフラ開発を背景に人材育成と技術開発が精力的に、スピーディに進行していることが感じとられました。政治的に敏感な時期ですが、人類共通課題のPlanetary Health保全では、これまでの人脈を活かし日中連携し立ち向う必要性を痛感しました。（八重樫 武久）



## ■QRコードの原点と発展をテーマ に第18回EJC中部レクチャー開催

世界中にITイノベーションを起こしたQRコードの発明者で中部地区の一民間企業のエンジニアであった原昌宏氏が、これまで学術研究者が主な受賞対象者であった恩賜賞・日本学士院賞を6月12日に受賞されました。未来を工学することを旨とするEJC中部支部として心からの賛辞を贈るに相応しい出来事として捉え、EJC中部レクチャースペシャル版として恩賜賞・日本学士院賞受賞記念講演会を企画し、7月22日、氏に縁の深い福井市にて開催しました。QRコードの発明の原点となった発想、世界の隅々まで応用が展開され、一大イノベーションが起きた要因、それを起こさせた方策、残念なことに日本が応用展開で世界からもっとも遅れている事実ほか、今後の発展方向も語られました。高校生、大学生、大学関係者、一般市民など344名の聴講申し込みがありました。講演終了後、高校生たちは講師を囲み、質問や記念撮影をするなど交流を深め、大きな発明と社会貢献への強い動機付けになりました。中部支部会員と講師ならびに福井経済同友会はじめ経済界との交流も活発に行われました。（原 邦彦）



## ■2022年度の中部レクチャーが “会員が選ぶ行事賞”を再び受賞

日本工学アカデミー（EJC）第11回定時社員総会に合わせて、2022年度の“会員が選ぶEJC活性化事業貢献賞”の表彰式が6月2日に開催されました。会員から推薦のあった100件の中から選ぶもので、中部支部は、昨年度に引き続き、“会員が選ぶ行事賞”を受賞しました。

受賞対象は第15回EJC中部レクチャー「ハイブリッドプリウス生誕25周年記念シンポジウム」（未来は過去のなかにあり！ハイブリッド誕生とその後の25年を振り返り、自動車とモビリティ産業の未来を考える）です。受賞理由としては「開発実務統括者からハイブリッド自動車の開発成功の決め手になった要因が語られ、会員のみならず非会員の市民に工学と地方独特の価値を伝え、工学アカデミーに親しみを持っていただけた有意義な行事」とのことで、活動を評価されました。

中部支部では今後もEJCの活動スローガン「未来社会を工学する」のもと、支部の特徴を活かした活動を企画し、会員間の連携の活性化と産学間の繋がりの強化に貢献していきたいと思っております。（川澄 未来子）

